

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800333		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家 西舞子		
所在地	神戸市垂水区西舞子7-30-16		
自己評価作成日	令和3年3月6日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp">http://www.wam.go.jp</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ		
所在地	兵庫県朝霧山手町3番3号		
訪問調査日	令和3年3月16日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

たのしい家の名の通り、毎日がただ過ぎていくのではなく、行事などを取り混ぜて、とにかく楽しく、生活を送っていただくことに努めています。  
 職員の手作りの食事は、美味しさと温かさで、とてもご満足いただいている様です。  
 ご家族様と常に連携を取り、ご家族様とともに生活を支えていく事を目指し実現できている事が、とても嬉しいことです。そうすることで、さびしさを感じることなく、グループホームでの生活を安定的に楽しんでいただく事が出来ている様に思います。  
 職員研修も充実しており、職員が自主的にたのしい雰囲気作りをしている事も何よりの特徴です。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入し、自治会長に運営推進会議メンバーとなってもらい、美容院に訪問美容を依頼したり、商店から行事の弁当を調達するなど地域と交流してきた。今は外出及び地域との直接交流は控えているが、感染拡大の以前は花見等の外出行事や家族との外出のほか、ほぼ毎日近隣の公園などに散歩していた。玄関は安全の為施錠しているが、希望する方には職員が付添う。3点柵やセンサーマットも使用せず、拘束のないケアに努めている。感染防止の為面会をオンラインや戸外から窓越等の工夫で実施し、職員が入居者個々の様子を伝える写真入りの手紙を家族に送っている。レシピと食材を調達して入居者と職員と一緒に作る食事は美味しいと好評だが、感染防止の為今は職員のみで調理している。正月のお節や雛祭のお寿司等々で季節感を大切にしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

グループホームたのしい家西舞子

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアやパソコンの見出しに常に掲げており、全員が常に周知出来るようにしている。	従来から法人共通の施設理念を事業所内に掲示してきたが、今年度は法人ビジョン「家庭的な生活～自分らしく、楽しく、生きる～」を具体化する3箇条15項目の事業所独自の行動指針を管理者が中心となって作成、掲示して全職員で共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響で行えていない	自治会へ加入し、自治会長に運営推進会議メンバーとなってもらい、交流を続けてきた。地域の美容院に訪問美容を依頼したり、商店から行事の弁当等を調達したりしているが、今は感染防止のため地域との人の往来、直接交流は控えている。	今後感染の恐れが無くなれば、地域からのボランティアを受入れたりと、地域の行事に参加したりする交流を行って、地域との付き合いを更に深めていられることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域では認知症専門の施設として地域にて4年が過ぎ、地域ケア会議に参加し、認知症の方々の生活を知っていただく機会を作っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事やサービス内容を活動報告させていただき、要望などを受け付けていたがコロナ禍で出来ておらず。	運営推進会議は入居者と家族を含め必要な出席メンバーを全て揃え、隔月に開催して活発な意見交換を行ない、議事録を全家族に郵送してきたが、感染防止のため、2020年1月を最後に開催を中止している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の連絡会や地域ケア会議への参加により、情報を頂いたり、意見交換を行っている。	市とは感染防止対策等で問合せや連絡をしている。運営推進会議メンバーでもあるあんしんすこやかセンターとは主催の活動へ参加したり相互の情報交換等を定期的に行い連携してきたが、今は感染防止の為に行き来はせず、電話での連絡、連携に留めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束研修を全員が受けると共に、研修報告書を提出することにより、理解度を高めている。 ご家族様に何度も説明し、身体拘束の解除に向けて取り組んでいる。	毎年研修を行うが今年度は感染防止の為に配信動画等を用いたパソコンでの個人学習とした。玄関とユニット出入口は安全のため施錠しているが、希望する方には職員が付添う。3点柵やセンサーマットも使用せず、拘束のないケアの実践に努めている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修を全員が受けると共に、研修報告書を提出することにより、理解を高めている。細かい事への気遣いを話し合い、お客様ファーストに努めている	毎年2回の研修を行っているが、今年度は身体拘束と同じくパソコンでの個人学習による研修を実施した。職員のストレスが虐待に繋がらないよう、個人面談を行うと共に、法人として「ケア21こころの相談窓口」を設け心のケアにも配慮をしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を全員が受けると共に、研修報告書を提出することで理解を深めている。	毎年本社で権利擁護に関する研修を受けた管理者が講師となり事業所内で伝達研修を実施してきた。成年後見制度の利用者は居ない。制度に関するパンフレットは事業所入口に常備しているが、制度利用に関する相談に対応したことはまだない。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	誤解がないように、丁寧に時間をかけて説明をしている。 場合によってはエリアマネージャーなどを含め複数で対応するようにしている。	契約時には管理者と場合によりエリアマネージャーが対応し、契約書、重要事項説明書、重度化対応・終末期ケア対応に係る指針等を読み上げ、1～2時間位かけて丁寧に説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に管理者は、利用者と話す機会を設けられるように、事務所とリビングはつながっており、話しかけやすいようになっている。家族様が来られた時話しやすいように玄関通路の窓を開けている。	家族等の意見は運営推進会議や面会等の折に聞くことが多い。今は感染防止のため同会議は中止、面会はオンラインか窓越しという制限付きとなり、意見聴取の機会が少ない。3月から入居者個々の様子を伝える写真入りの手紙を家族に送り始めた。	入居者それぞれの様子を職員が手書きで綴り、近況写真を添えて家族に送ることを始められたのは素晴らしいです。適切な頻度で今後も継続されることを期待します。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務所がバリアフリーなのか入りやすいのか、要望としてシフトのことや勤務時間のこと、私的なことなども常に話に来ている為、答えやすい環境が出来ている。物品購入等も倉庫管理の希望があり反映している。	職員の意見は毎日の申し送り、月1回のユニット会議、全体会議、計画作成担当者会議の折に聞き取り、適宜運営に反映している。今年度は新任の管理者が、全職員との面談を着任後すぐに行い、仕事やキャリアについての意見や希望等を聴き取った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが、希望の働き方を相談し、シフトにのせていくことが出来ている。 誰伸び制度やキャリア段位制度がある為、希望に応じた働き方を選択できるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1か月研修、3か月研修、リーダー研修、管理者研修も充実している為、個々の状況を段階において育成するシステムがある。資格試験の研修参加の休暇もとれるように支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では様々な事業所があり、介護職や料理部の職員が入社時研修等で交流を深める事もできます。外部団体研修の支援もあり、サービスの向上に繋がっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	男性が苦手な方には、トイレ介助等を女性職員で対応、空腹の不安定さには、捕食もあり、利用者のニーズに合った、生活を安定的に確保している。傾聴し、何でも話せる環境を作っている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安な表情でお越しの際は、傾聴し話しやすい雰囲気づくりに努めています。関わる際には表情や感情の変化に気をかけながら傾聴する事を心がけている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた家族様とのお話で、地域密着型の施設を説明させていただき、まず初めに何処に手続きに行くのかを説明させて頂いたり、遠方の父母の施設選びや在宅支援の説明などをさせていただいている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自宅のように自ら進んで調理や洗い物をされるなど、お願いせずに自立に寄り添う、または頼ることもある関係性が構築されています。職員のフォローをして下さる方もおられ、助け合って1日を暮らしています。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様来訪時に普段の様子を話したり家族様が安心できるような会話を心がけている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今はコロナ禍で思う様に支援が出来ていません。	感染防止の為面会は家族のみ、それも予約制で短時間のオンラインや窓越しという制約付きになっている。馴染みの場所や店等への外出も出来ないのも、職員が思い出の場所の写真を雑誌等で一緒に眺めたり、好物を家族に届けてもらう等の工夫をしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係がスムーズにいくように食席に配慮したり、間に入ったりし支援できるようにしている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着型サービスは、ご近所付き合いが主で、道を歩けばお知り合いです。幼馴染のご家族様の関係などもあり、退所後も出会う機会もあります。いつでも相談に来てもらえる気軽さを作り続けます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿う様に努めているが難しい時はチームで話し合い結論を出すようにしている	今までの暮らしの流れを大切にすることを心掛けている。本人と家族、主治医や専門職からも聞き取り、担当者会議には本人も出席している。意思疎通が困難な方には日常の様子や表情から一人ひとりの思いをくみ取り、タブレットに記入して職員間で共有している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	船長さんや武家の出の方、高知から若いころに出てこられた方、食べ物の好みや分量等様々な感性を忘れずに今に繋げる事が出来る様に努めています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の日々の様子、体調心身の変化、行動の観察等が出来る様に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーや計画作成が現状把握に必要な情報を、直接介護を行う中で組取ったり、医師・歯科・訪問看護師・職員・家族様と話し合いご本人に適した介護計画を都度作成し、実践に繋げている。	介護計画は計画作成者、管理者、居室担当者、本人の4人で話し合い検討を行っている。本人の前でも言えるわかりやすい文言でプランを作り、毎月末にはモニタリングを行い、6カ月毎の短期目標、1年ごとの長期目標で確認している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、管理日誌を共有し、申し送りにて職員間の連絡を密にすることで、日々気づきや変化に生かし、対応している。往診時にあらかじめの報告や、現状を伝える用紙も作成し、情報共有にも使っている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	落ち着かれない方への対応として、可能な限り職員で対応しているが、家族様と連携を図り、面会に来ていただく事で、落ち着きを取り戻すことができた。 個別の外出を企画。等		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍の為出来ていないが、近くの古墳への散歩に行き、そこから見える明石海峡大橋を眺めることで、地元の豊かさを感じたり、地域博物館にて昔の道具展を見に行く等生きてきた足跡や、暮らしを楽しむ支援していた。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設訪問医療・訪問看護・訪問歯科の連携を図り、受診に行けないご家族様の希望要望に応えている。認知症専門の医療機関に受診の方もいる。緊急時は病院・医療センターと連携している。	契約時に従来のかかりつけ医か事業所の協力医か希望を聞いている。内科の協力医は月2回、急な場合は随時往診がある。月～金曜日は毎日フロアごとに入居者の体調を記入し報告している。専門病院へは主に家族が同行しているが、できない時は職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護：週2回、主治医の往診も2週に1回であるが何かあればすぐに電話が出来る環境にあり、看護師にもDrにもすぐ答えてもらえる為、受診も看護も受ける事が出来る。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診のDrとも日々連携を図り、関係機関への連絡をしていただいていると共に、病院の相談員との連携も図り、入院・退院時のカンファレンスを行い連携を図っている。	入院時にはサマリーを提供し、日ごろの生活の様子などを伝えている。入院中は家族がお見舞いに行き、退院が近づいた時点で退院カンファレンスを行う。病院の相談員や関係者と検討し、退院後の日常生活が安心して過ごせるケアプラン作りに努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての指針やいざというときの家族様の考えを入居時からお聞かせいただいています。入院や退院時、Drからの検査結果の共有等をお伝えさせていただき、家族様の気持ちをささえるべく支援している。	契約時の重要事項説明書の中で「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」を説明している。重度化が見られた場合、医師や看護師とも連携しながら、バイタルチェック表や食事量をコピーして家族に渡し実情を共有しながら穏やかな看取りケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル作成をし、緊急対応時はそれに準じ対応をしている。連絡システムの充実もあり、即時の対応にて、誤嚥者を救出した経緯もある。事故研鑽も行っている為、実践できている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、常に対応できるように準備をしている。避難場所の確認など、研修をして、周知している。 自治会長とも連携を図り協力体制を築いている。	年2回、日中と夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。咄嗟の判断と行動がとれるよう職員には当日まで出火場所を知らせていない。避難場所は近くの小学校だが実際には行っていない。非常食は2～3日分準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉がけに努め、個室での生活空間もありプライバシーに配慮している。入浴やトイレ等もその方の気持ちに寄り添い、時間や日にちの変更をするなど、ご自身の人格を尊重し、対応をしている。	管理者が接遇マナー研修を受け、一人ひとりの人格を尊重することの重要性を全職員に伝えている。言葉づかい、接し方、トイレへの声掛けなど本人を傷つけてしまわないようさりげないケアができるように職員間でも配慮し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のつぶやかれたひとことに耳を傾け、合わない方との同席を改善し、安定的な生活を送れるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時に入眠されている方には、時間を変更して提供したり、栄養価を考えることがあります。手作りならではの提供ではないでしょうか。塗り絵、パズルがお好きな方、運動、ゆっくり居室で過ごす方、様々です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で服を選ばれて、朝のモーニングケアを見守り介助させていただきます。くしを使い、鏡を見ていただき、整えます。その日によってスカーフや小物などもご自身でアレンジされる方もおられます。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で一緒にすることが減っているが一人でも出来る事をお願いしてもらっている。	昼食と夕食は届けられた食材を職員と入居者が一緒に作っていたが、感染防止の為職員のみで調理している。検食を兼ねて職員は少し離れた席で入居者と食事し見守っている。クリスマス会にはケーキを、ひな祭りには散し寿司と和菓子を用意して季節感を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の定期的に提供、記録、自由に飲めるお茶も置いています。定食メニューでバランスの良い食事提供があります。エンシュアなどの提供もDr指示にて提供しています。スポーツドリンクも入浴後提供。		



自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行います。個々の能力に合わせて、職員が見守り声掛け～全介助まで行います。また、訪問歯科による、口腔内のチェックや口腔ケアも、週に2回あります。その時、指導もしていただけます。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間使用パットと日中の使用パットを変えることで、パット使用量の軽減につながっています。日中はご自身での立ち上がりが見られた時と定期的にご案内させて頂き、枚数の軽減、自立に向けた支援を心がけています。	排泄記録と対応内容はタブレットに記録し、全職員が見て確認する。本人の生活リズムにそってトイレで排泄できるような支援と配慮を心掛け、見守りを大切にしている。おむつやパットなど排泄用品は本人に合わせて検討し気持ちよく過ごせる工夫に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には、下剤をお持ちでなくても、ヨーグルトを毎日提供し召し上がって頂ける環境を作っています。日常的な運動として室内散歩や体操なども行います。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はその時の体調に応じて行いますので不定期です。曜日を決め心待ちにされている入居者様には、ご希望の曜日・時間を合わせています。入浴の声掛けに断られた方には、時間や日にちの変更もしています。	週2回入浴を心掛け、一人ひとりのその日の気分や体調を見計らって声をかけている。自分から入りたいと思えるように前もって準備し、以前から愛用しているシャンプー剤を持参する方もいる。ゆず湯や入浴剤を入れて香りを楽しむ日もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転もその方の自由睡眠を受け入れていきます。昼寝もご自身でされている場合は、食事時間を合わせる事もあります。夜間眠れずに、ずっとおしゃべりされる方もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安定剤が必要な方なども経過観察を行い、効果の是非の記録を重ね、受信時に報告、医師との連携を図っています。降圧剤の使用の方も個々の血圧状況に合った頓服使用をDrの支持通り行います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズル、塗り絵、居室でテレビを見て過ごす、家事、おしゃべり等、好みは様々です。毎日家族様が来られて、一緒に皆さんとレクリエーションをして下さる方、それぞれの支援をしています。		



自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で出来ていない	敷地内の庭や玄関先での散歩、車内から眺めるだけのドライブは許可されている。室内を大きく一周して歩き、ペットボトルのフタを使って歩行回数を記録し、歩くレクリエーションを楽しんでいる。感染防止のため外出は控えている。	以前は敷地内の畑にお芋を植えて水やりし、収穫して楽しめたと聞いています。室外に出て過ごせるプランも期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本ホームでは金銭の所持はしてもらっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、ご家族様からのお手紙はご本人にお渡ししています。手紙を出したいときはいつでも支援させていただきます。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、常に衛生を保つように努めています。TV、音楽環境に留意しています。季節折々の手作りの壁面飾りが、四季を感じるように工夫。温度も都度快適温度に変更していきます。等、配慮に努めています。	毎朝、全室の窓を開けて換気し、加湿器兼空気清浄機も各ユニットに2～3台置いている。テーブル、手すりなども消毒し、朝と夜間は床掃除も徹底している。壁にはみんなで手作りした大きな満開の桜と姫路城の貼り絵、楽しそうな笑顔の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由席の環境です、席替えも行います。館内が広いので、少し離れた場所に椅子を設けていますので、一人の時間も空間もとれます。将棋もお好きな方同士で自由にされています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具もカーテンも布団カバーも個人持ちで、部屋はそれぞれ違う空間になっています。居心地は良いようです。お茶をもって居室に入られて過ごされる方もおられます。香りも違います。	各部屋は好みのカーテンや使い慣れた馴染みのタンスやテーブル、椅子が置かれている。冷凍庫を置いて減塩食品をストックしている方もいる。家族写真や思い出の品、お仏壇のある部屋もあり、一人ひとりの思い出と居心地の良さに配慮した温かい雰囲気が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理や盛り付けも自ら手伝って下さる方やテーブル吹きをして下され方、洗濯をたたむ方、座ってお盆を拭いてくださる方、出来ることはそれぞれ違いますが、安全に気を付けていただいています。		